

九州電力CSRダイジェスト2017 ハイライト



お客さま満足の創造

電力を絶やさず安定的にお届けします

2017年度は、「平成29年7月九州北部豪雨」が発生しましたが、総力を挙げて復旧にあたり、早期に送電しました。

■平成29年7月九州北部豪雨(最大停電戸数:約6.4千戸)
九州各県から最大約1,700名を動員。停電発生(7月5日)から4日後までに、土砂崩れ等により進入が不可能な地区を除いて、高圧配電線への送電を完了



安全・安心の追求

原子力発電所の安全確保に万全を期します

当社の原子力発電所は、「世界でも最も厳しい水準にある新規基準」に適合し、安全対策の有効性が確認されています。

今後も、「福島第一原子力発電所のような事故は決して起こさない」という固い決意のもと、更なる安全性の向上に取り組んでいきます。

■重大事故を防ぐ5つの段階に応じた多様な安全対策を実施

①異常の発生を防ぎます

地震や津波、竜巻などの大規模な自然災害への備えを強化

②異常の拡大を防ぎます

重大事故の防止に必要な電力を確保する発電機を新たに配備

③燃料の損傷を防ぎます

燃料の冷却を確実に実施するポンプを新たに配備

④格納容器の破損を防ぎます

格納容器の冷却手段の多様化、水素濃度の低減対策を実施

⑤放射性物質の放出及び拡散を抑えます

放射性物質の放出・拡散を抑える放水砲や水中カーテンを配備



環境にやさしい企業活動

地球温暖化防止に積極的に貢献します

当社が事業参画する世界最大規模の地熱発電所(インドネシア)の初号機が、2017年3月に営業運転を開始。国内で培った地熱発電技術を活かし、地球温暖化防止及び現地の電力安定供給に貢献していきます。



サルーラ地熱発電所初号機(インドネシア スマトラ島 サルーラ地区)

〔プロジェクトの概要(当社25%出資)〕

事業内容	地熱資源開発から発電までの一貫開発 発電電力はインドネシア国有電力会社に30年間売電
出力	32万kW*(3系列)
運転開始	初号機:2017年3月、第2号機:2017年10月 第3号機:2018年予定

※国内最大である当社八丁原発電所の約3倍の規模



地域・社会との共生

九州の明るい未来のために、活動します

「九電みらい財団」を2016年5月に設立。九州電力の思い「ずっと先まで、明るくしたい。」を実現していくため、環境活動・次世代育成支援活動を積極的に行っています。

■環境保全活動: 坊ガツル湿原(大分県)の自然環境保全

■環境教育活動: 社有林を活用した次世代環境教育



■次世代育成支援活動: 地域団体の活動への助成



「NPO法人 心音」(鹿児島県)
~無料学習塾~

「きんしゃいきやんばす」(福岡県)
~子どもの居場所づくり~

2016年度実績	環境保全活動	活動5回、約600名参加
	環境教育活動	活動19回、約700名参加
	次世代育成支援活動	20団体に助成